

外部専門員ニュース 第8号

令和5年10月6日
都立清瀬特別支援学校長
古館 秀樹

合同会社学習室クレメント 富岡康一先生より、児童・生徒の行動に対する大人の考え方や対応の仕方について、御紹介いただきます。



1 困っているのは誰か

自分や他人を傷つける、高いところに登ったり飛び降りたりする、落ち着かずに突然飛び出す、ちょっとしたことで泣き叫ぶ、わがままでいうことを聞いてくれない、すぐにイヤと言ったりわざと悪いことをして注意を引こうとする、物の位置や手順にこだわる、無断外出する、親に対して暴言を吐く、一番にならないと気が済まない…。挙げだしたらきりがなく、「困った行動」は多岐にわたりますね。日々対応に追われる保護者の方も、学校の先生も、頭を悩ませているかと思います。

最も重要なのは、「一番困っているのは本人だ」ということです。子どもの困った行動に直面すると、大人は「この子はなんて困ったことをするのだろう。どうにかしなければ。」と考えます。そう感じたら、「この子は何に困っているのだろう。どうしてあげればよいのだろう。」と言い換えてみましょう。ここから、困った行動を解決する作業がはじまります。

2 ほとんどが発達相応の行動である

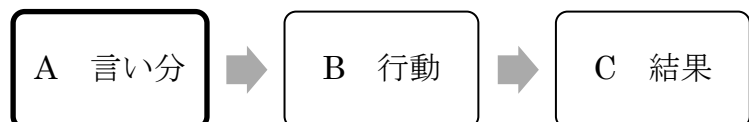
冒頭に例示した幾多の困った行動は、ほとんどが発達相応の行動であり、私たち大人も小さいころに同じことをやってきています。やっていたのは1歳から3歳くらいなので、すっかり忘れていたのは当然です。それから成長し、そういう時期をあっという間に通過します。そして思春期になって親に反抗的態度をとって(このへんは覚えているはずですが)、それも通過して今に至ります。

知的障害があると、1歳から3歳相当の発達段階に長くとどまるので、困った行動を「やるべくしてやる」時期が長く続くことになります。典型的なのは「わがままでいうことを聞いてくれない、すぐにイヤと言う」です。私たちが2歳前後の頃、こういう行動で親を困らせていました。スーパーのお菓子売り場で泣き叫んでいるのはたいてい2歳児です。

3 行動には理由がある

言い換えると「子どもの言い分」です。人は無意味な行動はしません。何かしらその行動をする理由があります。図式化すると右のようになります。

「A 子どもの言い分」をくみ取りましょう。私たちの子どもは、自分の言い分を適切なことばで表現することができません。だから、いきなり「B 困った行動」をしているように見えるのです。その結果「C 注意する、叱る、禁止する」という対応をしがちですが、こうした「否定的なC」を提示しても「困った行動B」は変わらず維持されることがほとんどです。繰り返します。「A 子どもの言い分」をくみ取りましょう。



その結果「C 注意する、叱る、禁止する」という対応をしがちですが、こうした「否定的なC」を提示しても「困った行動B」は変わらず維持されることがほとんどです。繰り返します。「A 子どもの言い分」をくみ取りましょう。

4 子どもの言い分の例と大人の対応

ほとんどの困った行動は、この表の「大人の対応」を行うことで少なくなります。

行動	子どもの言い分	大人の対応
自傷（自分を傷つける、叩く）	「指示されたことができないよ、何を言われているのかわからないよ。」	自力でできることを提示する。言葉ではなく見ればわかる方法で伝える。
他害（他人を傷つける、叩く）	「その人に対して何か伝えたいことがある（ほとんどの場合、不満か拒否）が、日本語でどう表現するのかわからないよ。」	伝えたいことをくみ取って代わって伝えてあげる。大人が「いやです」などと言語化してあげる。
高いところに登る、走り回る	「その刺激（前庭覚刺激）が欲しい」	回転して目が回った状態に似た刺激を希求する傾向が強い人なので、定期的に回転させて補充してあげる。
落ち着かずに突然飛び出す、離席する	「あー、つまんないなあ……あれ、あそこにあんなに素敵なものがある！」	A：やっている活動がわからない、つまらない、できないから他に注意が向く。楽しく理解できる、成功できる活動を提示する。 B：ASDのシングルフォーカスやADHDの衝動性が背景にある。あまりに衝動性が強い場合は服薬が有効。
ちょっとしたことで泣き叫ぶ	「ちょっとしたことですか？あなたにはそう思えても、これは私にとって最重要事項なのです！」	あまりにも易怒性が強い場合は服薬が有効。
イヤイヤ・ヤルヤル・注目誘引	「私が宇宙の中心です（2歳児標準）。」 「ママ（先生）、私を見て！（2歳児標準）。」	ステージⅡの発達相応の行動なので、生温かく見守る。
こだわり	「私は、これはこうあるべきだと知っている。だからこれ以外考えられない。」	ASDの診断基準なのでやむなし。ASDの障害特性（意味の理解の障害、同一性の保持、シングルフォーカス）が背景にある。
無断外出	「俺は自由だ。外の世界に興味があるぜ！ホントは断ってから行きたいけど、なんて言ったらいいかわからないし、どうせダメって言われるし。」	どこに行きたいのかをくみ取り、いつ行けるのかをハッキリさせる。
暴言	「やられそうだ、負けそうだ、できなさそうだ、これはマズい。やられる前にやれ！」	大きな声や強い言葉は追い詰められた時の防衛機制。これは大人も同じ。「やられそう」な状況から解放してあげる。
一番じゃなきゃ絶対納得しない	「俺は『勝利』の価値を本当に理解したんだ。だから何が何でも勝ちたいんだ！」	勝ち負けが頻繁に入れ替わる活動を提示する。

5 できていることに注目して評価する

ある日電車に乗っていると、目の前の座席にお母さんと兄弟二人連れが座っていました。兄弟は元気で、二人でちょっかいを出し合っていました。そのたびにお母さんは「静かにしなさい！シッ！シーッ！」と言って静かにさせていました。その時は静かになり、お母さんはスマホに目を落とします。しかし30秒後、また騒ぎはじめます。お母さんはまた注意して、静かにさせてスマホ。これを何度も繰り返していました。

静かになった瞬間がチャンスなのです。私は「今だ！今褒めろ！」と心の中で叫びました。望ましい行動を見逃さずに、「静かにできているね」と評価すると、静かにする行動が維持されやすくなります。人はできていない部分に自動的に注意を引かれます。できている部分に注目することは、意図的にやらなければなりません。

外部専門員 合同会社学習室クレメント 富岡康一